

【CHECK・ACTION】

指標の推移・評価

活動指標 1 (「手段」をもとに設定)	指標名：年間活動数	指標の求め方：防火活動団体の年間活動回数
成果指標 1 (「成果」をもとに設定)	指標名：平均出席率	指標の求め方：出席者数÷会員数×100

			第1次実施3カ年計画				第2次実施3カ年計画				第3次実施4カ年計画				第7期	
			第1年次 (3年度)	第2年次 (4年度)	第3年次 (5年度)	実施3カ年 合計	第4年次 (6年度)	第5年次 (7年度)	第6年次 (8年度)	実施3カ年 合計	第7年次 (9年度)	第8年次 (10年度)	第9年次 (11年度)	第10年次 (12年度)	実施4カ年 合計	総合計 合計
指標	活動指標 1 (単位/回)	計画値 実績値	15 10	15 9	15		15	15	15		15	15	15	15		
	成果指標 1 (単位/%)	計画値 実績値	55 51	60 44	65		70	75	80		85	90	95	100		
事業 評価 内容	事業の達成度 (活動指標をもとに評価)					あまり達成されていない										
	事業の成果 (成果指標をもとに評価)					あまり上がっていない										
	事業の効率性 (事業費に対する成果)					あまり上がっていない										
	総合評価					普通である										
	総合評価の判断理由または指標の実績値に関する自己分析	自己分析： 会員が集まって実施する事業を屋外に変更して開催する等、新型コロナウイルス感染対策に傾注し、成果指標の計画値に近づきつつある現状である。しかしながら変更の利かない室内での事業は未だ実施が出来ていない状況である。	自己分析： 新型コロナウイルス感染対策を実施しながら事業を実施し、事業を屋外にて開催するなど工夫をしているが、冬季に開催する行事もあり、出席率が天候に左右される場合がある。適正な開催時期を検討する等、成果指標の計画値に近づける必要がある。	自己分析：	判断理由： 新型コロナウイルスの感染拡大及び感染防止のため火災予防運動、防火団体による啓発活動、研修等が満足に実施出来ない中、感染対策を実施しながら屋外等での研修を実施する等工夫をしているが、各行事への参加者が横ばいの現状である。新型コロナウイルスの感染法上の位置づけが5類に移行したことから行事への参加を積極的に促し、火災予防啓発を実施することが必要である。	自己分析：	自己分析：	自己分析：	判断理由：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	判断理由：		
今後の方向性					現状のまま継続											
方向性の判断理由 改善、改革の内容 (R5、R8、R10)	R5： 社会活動が少しずつではあるが活発になる中、防火団体としても感染対策を実施しながら各種行事を回復させ、より多くの会員の参加を促し、各種団体との協力体制を構築し積極的な火災予防啓発の展開、会員相互の交流を実施していきたい。				R8：				R10：							

【CHECK・ACTION】

指標の推移・評価

活動指標 1 (「手段」をもとに設定)	指標名：火災予防広報活動数	指標の求め方：広報活動件数
成果指標 1 (「成果」をもとに設定)	指標名：火災発生件数	指標の求め方：火災発生件数

			第1次実施3カ年計画				第2次実施3カ年計画				第3次実施4カ年計画				第7期	
			第1年次 (3年度)	第2年次 (4年度)	第3年次 (5年度)	実施3カ年 合計	第4年次 (6年度)	第5年次 (7年度)	第6年次 (8年度)	実施3カ年 合計	第7年次 (9年度)	第8年次 (10年度)	第9年次 (11年度)	第10年次 (12年度)	実施4カ年 合計	総合 合計
指標	活動指標 1 (単位/回)	計画値 実績値	20 3	20 3	20 4	20	20	20	20	20	20	20	20	20		
	成果指標 1 (単位/件)	計画値 実績値	10 4	5 8	4		3	2	1		0	0	0	0		
事業 評価	事業の達成度 (活動指標をもとに評価)					あまり達成されていない										
	事業の成果 (成果指標をもとに評価)					あまり上がっていない										
	事業の効率性 (事業費に対する成果)					あまり上がっていない										
	総合評価					普通である										
	総合評価の判断理由または指標の実績値に関する自己分析	自己分析： 「市民防火のつどい」は継続的に実施してきたことにより市民に定着した行事となっており、各防火協力団体、各事業所等に積極的に参加して頂くことで市民の防火防災意識の向上に繋がっている。令和2年度～令和4年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止としたが、今後も継続して事業を実施し、市民の防火防災意識の向上に努めていくことが重要である。	自己分析： 「市民防火のつどい」は継続的に実施してきたことにより市民に定着した行事となっており、各防火協力団体、各事業所等に積極的に参加してもらい、市民の防火防災意識の向上につながっている。令和2年度～令和5年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止及び5類移行後も2類相当時の感染対策を継続していることから中止となったが、令和4年度より他機関主催のイベントに参加協力し、少しでも市民への啓発が出来るように努めている。今後も各種団体の行事に積極的に協力する体制づくりが必要と考える。	自己分析： 令和2年度～令和5年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止及び5類移行後も2類相当時の感染対策を継続していることから中止となったが、今後も継続して事業を実施して市民の防火・防災意識の向上に努めていくことが需要である。	判断理由： 令和2年度～令和5年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止及び5類移行後も2類相当時の感染対策を継続していることから中止となったが、令和4年度より他機関主催のイベントに参加協力し、少しでも市民への啓発が出来るように努めている。今後も各種団体の行事に積極的に協力する体制づくりが必要と考える。	自己分析：	自己分析：	自己分析：	判断理由：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	判断理由：		
今後の方向性					現状のまま継続											
方向性の判断理由 改善、改革の内容 (R5、R8、R10)	R5： 市主催のイベント、各種団体が開催するイベント等にも積極的に参加する等、協力体制を強化し連携を深めることで協力関係が構築され、併せて市民への火災予防啓発に寄与するよう努めていくことが重要である。					R8：					R10：					

【CHECK・ACTION】

指標の推移・評価

活動指標 1 (「手段」をもとに設定)	指標名：立入検査回数	指標の求め方：立入検査を行った回数
成果指標 1 (「成果」をもとに設定)	指標名：不備があり指導した防火対象物数	指標の求め方：(防火対象物数－不備があり指導した防火対象物数)÷防火対象物数×100

			第1次実施3カ年計画				第2次実施3カ年計画				第3次実施4カ年計画				第7期	
			第1年次 (3年度)	第2年次 (4年度)	第3年次 (5年度)	実施3カ年 合計	第4年次 (6年度)	第5年次 (7年度)	第6年次 (8年度)	実施3カ年 合計	第7年次 (9年度)	第8年次 (10年度)	第9年次 (11年度)	第10年次 (12年度)	実施4カ年 合計	総合 計画 合計
指標	活動指標 1 (単位/回)	計画値 実績値	35 4	35 88	35		35	35	35		35	35	35	35		
	成果指標 1 (単位/%)	計画値 実績値	70 20	72 70	74		76	78	80		82	84	86	88		
事業 評価	事業の達成度 (活動指標をもとに評価)					達成されている										
	事業の成果 (成果指標をもとに評価)					上がっている										
	事業の効率性 (事業費に対する成果)					上がっている										
	総合評価					良好である										
	総合評価の判断理由または指標の実績値に関する自己分析	自己分析： 新型コロナウイルス感染拡大防止から、違反が継続している事業所に数を絞り立入検査を実施した。活動、成果指標共に計画値を下回る実績値となるため、補完として火災被害の大きい事業所に防火啓発文書を発送したが、直接指導と比較し効果を実感し難い部分があるため、感染防止に留意し立入検査実施数を増やして参りたい。	自己分析： 火災発生時に被害の大きい延面積300㎡以上の特定防火対象物を対象に立入検査を実施した。(新型コロナウイルス感染拡大防止から、病院及び高齢者福祉施設等を除く)成果指標の実績値も計画値の近似値となり、昨年度と比較し直接指導による効果を実感した。今後も実績値向上を目指し取り組んで参りたい。	自己分析：	判断理由： 令和3年度と比較し、令和4年度は活動指標及び成果指標共に大きく上昇しているため。	自己分析：	自己分析：	自己分析：	判断理由：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	判断理由：		
今後の方向性					現状のまま継続											
方向性の判断理由改善、改革の内容(R5、R8、R10)	R5： 新型コロナウイルス感染拡大防止から、近年は立入検査を制限して文書による指導を主としていたが、文書による指導のみでは効果を得難い部分があり、令和4年度は火災時に被害が大きくなる防火対象物に的を絞り立入検査を実施した。立入検査による直接指導は、火災被害、火災予防及び違反改善の重要性を効果的に伝えることができ、成果指標の実績値向上に繋がったことから、今後の方向性についても現状のまま継続とした。					R8：					R10：					

【CHECK・ACTION】

指標の推移・評価

活動指標 1 (「手段」をもとに設定)	指標名：更新消防情報指令装置台数	指標の求め方：更新した消防情報指令装置の台数
成果指標 1 (「成果」をもとに設定)	指標名：更新消防情報指令装置台数	指標の求め方：更新した消防情報指令装置の台数

			第1次実施3カ年計画				第2次実施3カ年計画				第3次実施4カ年計画				第7期		
			第1年次 (3年度)	第2年次 (4年度)	第3年次 (5年度)	実施3カ年 合計	第4年次 (6年度)	第5年次 (7年度)	第6年次 (8年度)	実施3カ年 合計	第7年次 (9年度)	第8年次 (10年度)	第9年次 (11年度)	第10年次 (12年度)	実施4カ年 合計	総合 計画	
指標	活動指標 1 (単位/台)	計画値 実績値	0 0	0 0	1 1		0 0	0 0	0 0		0 0	0 0	0 0	0 0			
	成果指標 1 (単位/台)	計画値 実績値	0 0	0 0	1 1		0 0	0 0	0 0		0 0	0 0	0 0	0 0			
事業 評価	評価内容	事業の達成度 (活動指標をもとに評価)				達成されていない											
		事業の成果 (成果指標をもとに評価)				変わらない											
		事業の効率性 (事業費に対する成果)				変わらない											
		総合評価				普通である											
		総合評価の判断理由または指標の実績値に関する自己分析	自己分析： 周辺機器の故障やメインPCの一時的なフリーズ等、現時点では軽微な修繕で対応できる範囲での不具合だが、計画的な更新が必要である状況であることに変わりがないと考える。更新機種の選定や有利な財源等に注視し事前に事業に備える必要がある。	自己分析： 周辺機器の故障やメインPCの一時的なフリーズ等、現時点では軽微な修繕で対応できる範囲での不具合だが、計画的な更新が必要である状況であることに変わりがないと考える。更新機種の選定や有利な財源等に注視し事前に事業に備える必要がある。	自己分析：	判断理由： 適宜、軽微な修繕を実施し万全な通信体制を維持しているものの、機器の経年劣化は否めない状況である。更新機種の選定及び財源等、早急に方向性を決める必要がある。	自己分析：	自己分析：	自己分析：	判断理由：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	判断理由：		
今後の方向性				現状のまま継続													
方向性の判断理由 改善、改革の内容 (R5、R8、R10)	R5： 新型コロナウイルス感染防止により消防体制維持が最優先事項となったため、外部との遮断や職員間の接触の回避を実施したことから、指令台の更新事業へ着手できない状況となった。また、滝川地区広域消防事務組合より指令台共同運用の打診があったことから、検討・協議を重ね、検討会の解散まで更新事業を保留していた経緯がある。					R8：					R10：						

【CHECK・ACTION】

指標の推移・評価

活動指標 1 (「手段」をもとに設定)	指標名：改修消防庁舎数	指標の求め方：改修工事を行った消防庁舎数
成果指標 1 (「成果」をもとに設定)	指標名：改修消防庁舎数	指標の求め方：改修工事を行った消防庁舎数

			第1次実施3カ年計画				第2次実施3カ年計画				第3次実施4カ年計画				第7期 総合計画 合計
			第1年次 (3年度)	第2年次 (4年度)	第3年次 (5年度)	実施3カ年 合計	第4年次 (6年度)	第5年次 (7年度)	第6年次 (8年度)	実施3カ年 合計	第7年次 (9年度)	第8年次 (10年度)	第9年次 (11年度)	第10年次 (12年度)	
指標	活動指標 1 (単位/棟)	計画値 実績値	0 0	0 0	1 1		0 0	0 0	0 0		0 0	0 0	0 0	0 0	
	成果指標 1 (単位/棟)	計画値 実績値	0 0	0 0	1 1		0 0	0 0	0 0		0 0	0 0	0 0	0 0	
事業 評価	事業の達成度 (活動指標をもとに評価)				達成されていない										
	事業の成果 (成果指標をもとに評価)				変わらない										
	事業の効率性 (事業費に対する成果)				変わらない										
	総合評価				普通である										
	総合評価の判断理由または指標の実績値に関する自己分析	自己分析： 外壁にあつては外観上、軽度なクラックは見られるが剥離等は無く、屋上防水にあつても市内専門業者の見分調査により現段階では浸水危機の状況には無い模様。早急な修繕を要する状況では無いが、経過年数が長期に渡っていることから計画的に事業を進める必要がある。	自己分析： 外壁にあつては外観上、軽度なクラックは見られるが剥離等は無く、屋上防水にあつても市内専門業者の見分調査により現段階では浸水危機の状況には無い模様。早急な修繕を要する状況では無いが、経過年数が長期に渡っていることから計画的に事業を進める必要がある。	自己分析：	判断理由： 当初の見込みよりも腐食や変形、剥離等がみられず予算計上に至らなかったものの、経年劣化は顕著であり、引き続き市内業者に定期的な調査を依頼し、万全な消防体制の維持に努める。	自己分析：	自己分析：	自己分析：	判断理由：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	判断理由：	
今後の方向性				現状のまま継続											
方向性の判断理由 改善、改革の内容 (R5、R8、R10)	R5： 職員による配管清掃、雑草除去等により漏れはいるものの雨漏りが発生することもあり、防水及び建物強度の低下は引き続き懸念される状況である。万全な消防体制時のため、計画的に事業を進める必要がある。				R8：				R10：						

【CHECK・ACTION】

指標の推移・評価

活動指標 1 (「手段」をもとに設定)	指標名：消防車両更新等台数	指標の求め方：更新及び増強した消防車両の台数
成果指標 1 (「成果」をもとに設定)	指標名：消防車両更新等台数	指標の求め方：更新及び増強した消防車両の台数

			第1次実施3カ年計画				第2次実施3カ年計画				第3次実施4カ年計画				第7期		
			第1年次 (3年度)	第2年次 (4年度)	第3年次 (5年度)	実施3カ年 合計	第4年次 (6年度)	第5年次 (7年度)	第6年次 (8年度)	実施3カ年 合計	第7年次 (9年度)	第8年次 (10年度)	第9年次 (11年度)	第10年次 (12年度)	実施4カ年 合計	総合 計画	
指標	活動指標 1 (単位/台)	計画値 実績値	0	0	1		1	1	1		1	1					
	成果指標 1 (単位/台)	計画値 実績値	0	0	1		1	1	1		1	1					
事業 評価	評価内容	事業の達成度 (活動指標をもとに評価)				達成されていない											
		事業の成果 (成果指標をもとに評価)				上がっていない											
		事業の効率性 (事業費に対する成果)				上がっていない											
		総合評価				普通である											
		総合評価の判断理由または指標の実績値に関する自己分析	自己分析： 更新予定であった砂川2号車（大型水槽車）は大幅に更新予定年数を超えているが重大な故障箇所等はなく、更新を見送った。しかし、劣化は進行しており、可能な限り早期の更新が望ましい。	自己分析： 前年度と同事由。当該車両は配備から30年を超えており、経年劣化は明確であるが、車両本体の状態、他の支援車両の状況から延長使用が可能であると判断した。しかし、修繕の際の部品調達に苦慮する事態も散見される。不動となった場合は地域の防災体制に大きな不備となる重要な車両であることから、車両本体の現況を細かく把握し、適格な更新時期を判断したい。	自己分析：	判断理由： 活動・成果指標上は計画値を下回るものであるが、高額な更新経費を要する消防車両を延命使用出来ると判断したものであり、主目的である地域の防災体制の維持の計画に支障が出ているものではない。適格な更新時期を見誤らないよう、日常的に細かな維持管理を行い、車両本体の状態に注視したい。	自己分析：	自己分析：	自己分析：	判断理由：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	判断理由：		
	今後の方向性				現状のまま継続												
	方向性の判断理由改善、改革の内容(R5、R8、R10)	R5： 配備から既定の経過年数を迎える緊急車両の更新を計画しているが、車両の状態を把握し、使用頻度や防災体制上の位置づけ等を考慮し、逐一更新時期の調整を行う方向性である。令和4年度更新計画であった「大型水槽車」にあつては延命使用可能であると判断し更新延期、令和5年度は当初計画どおり「高規格救急車」を更新することとしている。令和6年度以降も更新を延期した車両、更新を迎える車両共に現況を精査して判断する。				R8：				R10：							

【CHECK・ACTION】

指標の推移・評価

活動指標 1 (「手段」をもとに設定)	指標名：水難救助資器材更新数	指標の求め方：更新した水難救助資器材の数
成果指標 1 (「成果」をもとに設定)	指標名：水難救助資機材更新数	指標の求め方：更新した水難救助資機材の数

			第1次実施3カ年計画				第2次実施3カ年計画				第3次実施4カ年計画				第7期	
			第1年次 (3年度)	第2年次 (4年度)	第3年次 (5年度)	実施3カ年 合計	第4年次 (6年度)	第5年次 (7年度)	第6年次 (8年度)	実施3カ年 合計	第7年次 (9年度)	第8年次 (10年度)	第9年次 (11年度)	第10年次 (12年度)	実施4カ年 合計	総合 計画
指標	活動指標 1 (単位/基)	計画値	1	0	1		0	0	1		0	0	0	0		
		実績値	1	1												
指標	成果指標 1 (単位/基)	計画値	1	0	1		0	0	1		0	0	0	0		
		実績値	1	1												
事業 評価	事業の達成度 (活動指標をもとに評価)					達成されている										
	事業の成果 (成果指標をもとに評価)					上がっている										
	事業の効率性 (事業費に対する成果)					上がっている										
	総合評価					極めて良好である										
	評価内容	総合評価の判断理由または指標の実績値に関する自己分析	自己分析： 約30年間使用した船外機、不調箇所の修理部品入手困難となり、トーハツ社製の同程度出力機種に更新。性能向上並びに起動時間等の短縮等により災害対応力の向上に繋がった。	自己分析： 10年間使用したドライスーツは修繕した場合も新規購入と同等の費用がかかることから、計画時期よりも早期に更新。安全性及び性能の向上により水害水難対応力の向上に繋がった。	自己分析：	判断理由： 第1次実施計画により船外機、ドライスーツが整備され、近年全国的に多発している豪雨や風水害に対し、隊員の安全性及び災害時における水害水難対応力の向上に繋がった。	自己分析：	自己分析：	自己分析：	判断理由：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	判断理由：	
	今後の方向性					現状のまま継続										
	方向性の判断理由 改善、改革の内容 (R5、R8、R10)		R5： 安全性の高い資器材を使用することにより、隊員に対し安心感が与えられ、作業効率や活動内容が向上し、災害対応に集中することが出来る。資器材は経年劣化し、安全性が低下していくことから、今後も継続して安全性の確保をすることで災害時に万全を期する事が出来ると考える。				R8：				R10：					

第 7 期 総 合 計 画 事 務 事 業 進 行 管 理 調 書

【PLAN】

事務事業の目的と成果

総合戦略掲載	×	過疎計画掲載	○
--------	---	--------	---

事業名	消火栓設置事業				事業期間	平成23年度 ～ 年度									
事業性質区分	新規・継続	継続	建設・建設外	建設外	第7期総合計画の位置付け	2-5-2	他に関連する基本事業	—	—	—	—	—	—	所管課係	警防課消防係
目的 (何のために実施するのか)	消防体制の充実及び強化を図る。							手段 (どのような方法で実現するのか)	水利不足地域に消防水利の基準に応じて、計画的に消火栓を設置する。						
対象 (誰・何を対象としているのか)	市内の消防水利不足地域。							成果 (どのような効果が得られるのか)	消防水利不足地域における水利が確保される。						
事業開始時の状況・これまでの経緯	消防水利については、火災の発生時に速やかに消火活動を行えるよう配置を行ってきた。平成12年に改正された「消防力の基準」によると、当市の既存消防水利数は基準数に達しておらず、不足地域へ計画的な新設を要する。なお、エリア的に重複している老朽化した箇所や、住宅地の変遷等により不要となった箇所は、改修せず撤去していただくことも考慮する。														

【DO】

実績

(単位：円)

		第1次実施3カ年計画				第2次実施3カ年計画				第3次実施4カ年計画				第7期 総合計 合計		
		第1年次 (3年度)	第2年次 (4年度)	第3年次 (5年度)	実施3カ年 合計	第4年次 (6年度)	第5年次 (7年度)	第6年次 (8年度)	実施3カ年 合計	第7年次 (9年度)	第8年次 (10年度)	第9年次 (11年度)	第10年次 (12年度)		実施4カ年 合計	
投 入 さ れ た 事 業 費 の 推 移	国 費	計 画 額				0				0					0	0
		予 算 計 上 額				0				0					0	0
		実 績 額				0				0					0	0
	道 費	計 画 額				0				0					0	0
		予 算 計 上 額				0				0					0	0
		実 績 額				0				0					0	0
	地 方 債	計 画 額	1,300,000	1,300,000	1,300,000	3,900,000	1,300,000	1,300,000	1,300,000	3,900,000	1,300,000	1,300,000	1,300,000	1,300,000	5,200,000	13,000,000
		予 算 計 上 額	1,300,000	1,200,000	1,300,000	3,800,000				0					0	3,800,000
		実 績 額	1,200,000	1,200,000		2,400,000				0					0	2,400,000
	そ の 他	計 画 額				0				0					0	0
		予 算 計 上 額				0				0					0	0
		実 績 額				0				0					0	0
	一 般 財 源	計 画 額	23,000	23,000	23,000	69,000	23,000	23,000	23,000	69,000	23,000	23,000	23,000	23,000	92,000	230,000
		予 算 計 上 額	23,000	93,000	28,000	144,000				0					0	144,000
		実 績 額	3,400	11,000		14,400				0					0	14,400
	事 業 費 合 計	計 画 額	1,323,000	1,323,000	1,323,000	3,969,000	1,323,000	1,323,000	1,323,000	3,969,000	1,323,000	1,323,000	1,323,000	1,323,000	5,292,000	13,230,000
		予 算 計 上 額	1,323,000	1,293,000	1,328,000	3,944,000	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3,944,000
		実 績 額	1,203,400	1,211,000	0	2,414,400	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2,414,400
事 業 費 予 算 の 内 容	消火栓新設委託料 1,102,200円 本体備品購入費 220,000円	消火栓新設委託料 1,067,000円 本体備品購入費 220,000円	消火栓新設委託料 1,080,000円 本体備品購入費 248,000円													
	設置位置の工事 区分の差異 消火栓本体価格 変動	設置位置の工事 区分の差異	設置位置及び 消火栓本体単価 の違い													
	委託料の減	見積り減														
前年度予算との比較 (増減理由)																
	実績との比較 (増減理由)															

【CHECK・ACTION】

指標の推移・評価

活動指標 1 (「手段」をもとに設定)	指標名：消防水利数	指標の求め方：消火栓数+防火水槽数
成果指標 1 (「成果」をもとに設定)	指標名：消防水利充足率	指標の求め方：水利数÷基準水利数×100

			第1次実施3カ年計画				第2次実施3カ年計画				第3次実施4カ年計画				第7期 総合計画		
			第1年次 (3年度)	第2年次 (4年度)	第3年次 (5年度)	実施3カ年 合計	第4年次 (6年度)	第5年次 (7年度)	第6年次 (8年度)	実施3カ年 合計	第7年次 (9年度)	第8年次 (10年度)	第9年次 (11年度)	第10年次 (12年度)	実施4カ年 合計	総合 合計	
指標	活動指標 1 (単位/基)	計画値 実績値	313 312	314 313	315		316	317	318		319	320	321	322			
	成果指標 1 (単位/%)	計画値 実績値	75 72	76 72	76		77	77	77		78	78	78	78			
事業 評価	評価内容	事業の達成度 (活動指標をもとに評価)				ほぼ達成されている											
		事業の成果 (成果指標をもとに評価)				少し上がっている											
		事業の効率性 (事業費に対する成果)				上がっている											
		総合評価				普通である											
		総合評価の判断理由または指標の実績値に関する自己分析	自己分析： 水利不足地域に新たに消火栓を整備することは計画的に達成できており、充足率を上げることにより当該地域の火災発生に万全を期することが出来る。	自己分析： 新たに水利不足地域に消火栓1基を計画的に整備し、当該地域の火災発生に万全を期することが出来る。	自己分析：	判断理由： 充足率については横ばいであるが、消火栓自体の信用度は格段に上がっており、設置場所にあっても市内住宅密集地の変動等の情勢に合わせ、更新整備出来ている。	自己分析：	自己分析：	自己分析：	判断理由：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	判断理由：		
今後の方向性				現状のまま継続													
方向性の判断理由 改善、改革の内容 (R5、R8、R10)	R5： 目に見える充足率の向上は図れなかったが、水利不足地域に対し新たな消火栓を計画的に設置する事が出来、また老朽化している消火栓に関しても計画的に整備されていることから、今後も継続することで災害時の不測の事態を回避し、万全を期する事が出来る。					R8：					R10：						

【CHECK・ACTION】

指標の推移・評価

活動指標 1 (「手段」をもとに設定)	指標名: 救命講習	指標の求め方: 普通救命講習、上級救命講習、救命入門コースの実施回数
成果指標 1 (「成果」をもとに設定)	指標名: 救命講習受講者	指標の求め方: 普通救命講習、上級救命講習、救命入門コースの実施者数

			第1次実施3カ年計画				第2次実施3カ年計画				第3次実施4カ年計画				第7期 総合計画 合計
			第1年次 (3年度)	第2年次 (4年度)	第3年次 (5年度)	実施3カ年 合計	第4年次 (6年度)	第5年次 (7年度)	第6年次 (8年度)	実施3カ年 合計	第7年次 (9年度)	第8年次 (10年度)	第9年次 (11年度)	第10年次 (12年度)	
指標	活動指標 1 (単位/回)	計画値 実績値	30 1	30 3	30		30	30	30		30	30	30	30	
	成果指標 1 (単位/人)	計画値 実績値	650 31	650 182	650		650	650	650		650	650	650	650	
事業 評価 内容	事業の達成度 (活動指標をもとに評価)					あまり達成されていない									
	事業の成果 (成果指標をもとに評価)					あまり上がっていない									
	事業の効率性 (事業費に対する成果)					あまり上がっていない									
	総合評価					問題がある									
	総合評価の判断理由または指標の実績値に関する自己分析	自己分析: 令和2年1月中旬から新型コロナウイルスの感染拡大防止のため昨年に引き続き全ての救命講習を実施可能な時期まで延期としたが、石山中学校で非接触型にてWEBを活用した救命入門コースを実施。学校は教室や体育館等の広い部屋やネット環境が整っているため開催することは出来たが、事業所は環境整備が出来ずに開催を見送った。感染拡大状況にもよるが、少人数に限定する等の措置を講じて今後少しずつでも再開し救命率向上に繋がるように実施したい。	自己分析: 令和2年1月中旬から新型コロナウイルスによる感染拡大防止のため昨年に引き続き全ての救命講習を実施可能な時期まで延期としたが、石山中学校令和4年度で閉校となることから体育館で距離を取り換気を実施し救命入門コースを実施。その他札幌大の医師を招いて薬物乱用・脳卒中についての講義を実施した。砂川高校・建設協会については接触しての実技指導は行わずに救命講話として119番通報のやり方や心肺蘇生法についての講話を実施。	自己分析:	判断理由: 新型コロナウイルス感染拡大により、対面での講習が出来ずに全ての救命講習を中止にした。事業所からの講習依頼は多々あったが消防の勤務体制の維持や高齢者施設へのウイルス持込を防ぐために苦しい判断であった。しかし、救命講習として終了証の発行は出来ないがネット環境が整っている学校関係にはリモートでの救命入門コースを開催、接触はしないように救命講話という形で出来る範囲で模索したが、令和4年度中は3回の実施に留まったため問題があると判断した。	自己分析:	自己分析:	自己分析:	判断理由:	自己分析:	自己分析:	自己分析:	自己分析:	判断理由:	
今後の方向性					現状のまま継続										
方向性の判断理由 改善、改革の内容 (R5、R8、R10)	R5: 新型コロナウイルスが5類に移行したことにより、救命講習を再開した。健康チェックシートの提出や一度に講習可能な人数に制限をかけて広いスペースで開催できることを条件に実施しているが、講習希望の問い合わせも増えてきていることから今まで開催することの出来なかった事業所から順次講習を行っている。今後も継続してコロナ禍以前の取組を実施していくことから、現状のまま継続とした。				R8:				R10:						